入善町報

発行所　入善町役場
編集発行　責任者　竹内栄治
印刷所　池原印刷所
定価　1部　5円

町の人口
34.12.1現在
人口……30.671人
男……14.700人
女……15.971人
世帯数……6,055世帯

新春を迎えて

町長　米沢甚吾

三十五年の新春を迎え町民の皆様に心から祝意を表しますと共に今年もご支援ご協力の程お願いします。

顧みまするに、昨年は本町にとって重要な年であったと思います。年度後半の舟見、野中との合併による行財政規模の円滑な調整も、渋滞なく運営され、あまっさい、念願の野中小学校新築第一期工事が完工できましたことは、偏えに、町民各位の大きなお力添えのたまものと感謝申し上げております。

さて、新しい年の抱負として先づ第一に、産業開発の促進をあげます。

町の重要産業である農業政策は、本年もかわらず重点政策として農業経済の安定を願うものであります。

第二には、金融面の調整による中小企業の健全な育成、第三には、七〇〇戸の漁民に対する、沿岸、遠洋漁業の共存による振興対策の確立であり、第四には林業でありますが、新しい技術の導入により実地に則した振興策を講ずる所存であります。

次に、教育面としての重点施策は、

一、野中小学校の新築第二期工事の完成
一、急増傾向にある中学校生徒の収容対策
一、公民館活動を中心にした社会教育

土木関係は、次の事項に重要ポイントを置く

一、黒部川並びに海岸の護岸対策促進
一、町道は新設よりも市員の拡張修理
一、河川の改修には出来得れば、目的税を創設して促進をはかりたい。

なお、昨年の第一目標であった工場誘致については町民のみなさまとともに全力をそそいで実現に邁進する所存であります。

また、社会労働関係は、母子健康センターの充実、国保の拡充、保育施設の整備充足を図って民生の安定を図りたい。

新年のあいさつ

町議会議長　大田元長

希望に満ちた一九六〇年の新春を迎えましたことは皆様とともにご同慶に存ずるものであります。

誌に「一年の計は元旦にあり」といいますが、わが町においても、産業の開発、学校の新改築、道路の拡張、治山治水土地改良、社会事業施設の拡充強化等々、しかも何れも多額の経費を要する大事業をあげたくなります。しかし、現在のわが町ではこれ等を一挙に成し遂げることは遺憾ながら不可能であると考えますが、将来への前進は無限であると思うとき、新たなる勇気と希望の湧き上るものを覚えます。

今年も幾つかの事業が話題となり計画されると思いますが、議会はあくまで良識を以て和衷協力し、歩一歩、確実健全に町政に参画したいと思います。

出来るだけ自戒自律して、町当局と議会が一丸となって町財政の健全化をめざして、躍進大入善町の発展を祈念するものであります。

町民各位におかれても、ご理解ある協力をいただき、ともに手をつないで、堅実な明日への歩みを続けて行きたいと思いますので、なにとぞ、町勢の円満なる前進のために、絶大なるご支援ご鞭撻をお願い申し上げるものであります。

<1月のこよみ>

1日(金)　元旦　初詣り
2日(土)　書初め、初荷
6日(水)　小寒の入り
7日(木)　七くさ
10日(日)　年賀郵便特別取扱終る
15日(金)　成人の日
16日(木)　やぶ入り
21日(木)　大寒入り
24日～30日　学校給食週間
31日(日)　町県民税納期限

<行事予定>

1日　名刺交換会（地区ごと）
4日　仕事はじめ
6日　消防出初式
上旬　大漁祈願祭(中央公民館)
11日　漁船幹部講習会開講式（同上）
13日　世界農林業センサス調査員講習会（同上）
15日　成人式（同上）
中旬　農業委員会総会(議場)
農業技術者協議会総会
青年議会（議場）
下旬　第23回町議会臨時会（議場）

郷土の先輩の名士にきく（第一回）

小摺戸出身　杉本　守義（四九才）

・職業　石川県総務部長
・住所　金沢市茨木町一七
・家庭　親子三人

アンケート

◇郷土の思い出の深いもの

正月の〝書初め〟を神社の前で燃やしたこと、黒部川で泳いだこと、盆踊りのふん囲気、熟柿を竹棹でとって食べたこと、屋根の雪おろし、朝夕学友と語らいながら入善駅まで徒歩通学したこと。

◇郷土自慢と悪口

控えめで、でしゃばらないこと、ねばり強いことが良い点であり、一面、度を過すと悪い点となる。

他人が貧乏すれば〝ガンの基盤である道路を改良整備する。地方開発と産業振興をもった人々の多いことを望む。

他人の成功を心からよろこべるような大らかな気持ちが、量見が狭い。

◇郷土への希望

東京の生活が長かったので、石川県へ来てから出来るだけ帰るようにしています。それでも一年に数回ぐらいでしょうか。東京にいたときは一年に一回は帰っていました。

昔の友人に会う機会が殆んどなくなったことは残念至りしものなり。

（十新川郡史考より）

小摺戸の起源

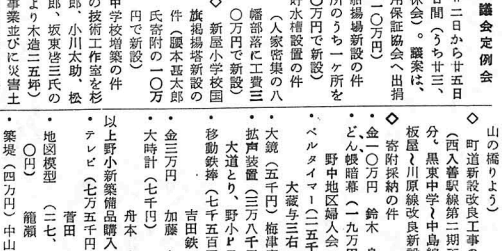
今の青木村にある浄慶寺は、往時小摺戸村字中ノ坪にありしものにて、其の門前に大なる砺石あり草刈童子馬上に居ながら、能く鎌を磨くを得、終日草を刈りて尚は切れ止むことなかりしと云う。其れより小摺砺村と云い来りしが、後今の小摺戸を以て言い表はすに至りしものなり。

（十新川郡史考より）

入善の地名

入善の地名が書物に見えるのは鎌倉時代のはじめ承久年間であるが、それから約五〇年前の高倉天皇の時に日本各地にある奈良東大寺庄園二十何ヶ所から人夫の供出を免除されている。

この庄園は大仏様の出来た時からの寺領が多いから入善庄も古いようである。



「入善」の本橋

文と　正島勝長

正倉院に残っている越中庄園の地図には入善はないが当時の越中東大寺領の面積は大体百町前後、条里という区劃整理がされ、坪付（つぼつけ）という番地がつけられていて、最も進歩した農耕技術による直営開墾地であった。

奈良、平安はじめの東大寺領は只年貢を吸い上げるだけでなく、大規模集団開墾だから、その跡は何かのかたち（即ち遺物・遺跡など）で現在まで残っているはずである。

入善では、黒部川の氾濫で跡は流されたという見方もあるが、当時の技術では黒部川から用水を引く力もなく、また土地が多いのでその必要もなかった。もっと簡単な自然薯が、いに近いものだったから、反って、髪だから、その跡は何かのかたち（即ち遺物・遺跡など）で現在まで残っているはずである。

入善では、黒部川の氾濫で跡は流されたという見方もあるが、当時の技術では黒部川から用水を引く力もなく、また土地が多いのでその必要もなかった。もっと簡単な自然薯が、いに近いものだったから、反って、髪だから、その跡は何かのかたち（即ち遺物・遺跡など）で現在まで残っているはずである。

入善では、黒部川の氾濫で跡は流されたという見方もあるが、当時の技術では黒部川から用水を引く力もなく、また土地が多いので

いままで「入善」はただ地名として考へられ、いろいろその起原を求め、研究が進められているのはよろこばしいことだが、古代寺院の庄園は直営開墾だからはっきりした出処があるので、それを見つけだすことこそ、入善研究の基礎になるのである。

筆者は県文化財審議会委員

議会だより

22回町議会定例会

会期は廿二日から廿五日までの四日間（うち廿三、廿四日は休会）。議案は、

◇県信用保証協会へ出捐の件（一〇万円）
◇横山船場場新設の件（五ヶ所のうち一ヶ所を工費六〇万円で新設）
◇防火貯水槽設置の件（人家密集の八幡部落に工費三〇万円で新設）
◇新屋小学校国旗掲揚塔新設の件（譲本吾太郎氏寄附の一〇万円で新設）
◇入善中学校増築の件（入中の技術工作室を杉田与次郎、小川太助、松田権次郎、坂東唐三氏の寄附により木造五坪）
◇耕地事業並びに災害土木事業の災害復旧の件（八月の集中降雨による耕地災害の荒又、舟見、島巡の頭首工。舟見の道路護岸、水口の橋台、横山の橋りょう）
◇町道新設改良工事の件（西入善駅線第二期工事分、黒東中学～中島線、板盤～川原線改良新設）
◇寄附採納の件
◇金一〇万円　鈴木　島蔵
◇どん、帳暗幕（一九万円）野中地区婦人会一同
◇ベルタイマー（二五千円）大蔵与三右ェ門
◇大鏡（五千円）梅津富二
◇拡声装置（三万八千円）〇万円で新設）
大道とり、野小PTA
◇移動鉄棒（七千五百円）吉田鉄工所
◇金三万円　加藤　与平
◇大時計（七千円）舟本　忠義
以上野小新築備品購入資金
◇テレビ（七万五千円）菅田　武一
◇地図模型（三七、一〇〇円）籠瀬　良明
◇築堤（四万円）中山康平
◇アコーデォン（二万円）石山　文吉
◇テレビ（六万二千円）黒東中学PTA
◇回転シーソー（一万円）
◇金二〇万円　横山　漁協（横山船場場新設資金）
◇財政再建計画一部変更
◇三四年度第三回追加更正予算（三、二〇一千円）
災害復旧土木費五七万円
◇小学校改築費四一九千円
◇中学校増築費三五〇千円
◇母子センター一二九千円
災害群地費一〇八七千円
◇船場場新築費六〇〇千円
◇固定資産評価審査委員
市山武夫（具紗）再選
◇選挙管理委員及び補充員選挙の件
管理委員竹内栄治（再）
西村常作（再）寺崎清作（再）広田与三（新）
◇補充員浜田勇太郎（新）
小路清太郎（新）愛場貞次郎（新）川原久光（再）
その他、舟見中学校舎増改築に関する請願書外一件を坪択（引続き、一般質問に入り活潑な質疑応答があって五時五十六分散開した。

なお、二十五日議決の決算認定案等は次号で。

賀正　元旦

入善町議会
議会議長　大田　元長
議会副議長　笹原　竹松
議会議員　松田　栄松
同　上島　正雄
同　松本　市郎
同　佐藤　光照
同　小瀬　吉郎
同　柏原　三郎
同　伊林　順平
同　松原　栄蔵
同　岩田　磯吉
同　杉原文次郎
同　岩場　正三
同　米沢　政虎
同　西島　三郎
同　吉沢　久雄
同　森田　清作
同　石川　清作
同　高田　栄松
同　細田　睦夫
同　稲村　繁
同　柚木　春雄
同　嶋田　久之
同　亀田　盛開
同　小森　幸男
同　西尾　三郎
同　三賀しさい
同　野島　正一
議会事務局長　竹島米吉

入善町教育委員会
委員長　中川　正明
委員　滝本　菊平
同　谷　雪枝
同　新田　義政
同　広野　清秀
教育長　竹内慎一郎

町長　米沢　甚吾
助役　清田　清一
助役　竹内　栄治
収入役　杉原礼次郎
建設課長　寺崎　清作
税務課長　上田　秀雄
産業課長　金沢　兼松
民生課長　長島啓太郎
財政課長　本田　清治
舟見支所長　西村　常作

古きをたずねて新しきを

新町建設計画

新しい町作りの基礎調査のための「現況篇」を完成し、いま、調整事務局は、向う五か年間の年度別「実施計画」の策定により、総合的経営開発の骨組みに意欲的である

昭和三十八年十月以来の合併によって誕生した新入善町は、数か町村を合併したものなどで、広大な区域の中に様々の産業形態の地域を含んでおり、合併当初「をうたてるためには、いわゆる旧町村の対抗意識が残っていたようである。

そこで新入善町を一つの家庭のようなしくりたものにするとともに、政治経済、産業、文化その他各部門にわたり総合的な経営開発を推進し、町民全体が豊かに、しあわせに暮らして行けるようにすることこそ新町建設の最大限目でなければならない。

以上のような考え方を実行に移すために、本町では目下総合開発十ヵ年計画の立案を急いでいる。これがいわゆる「新入善町建設計画」である。

諺に「古きをたずねて新しきを知る」と云うが、将来十ヵ年に及ぶ「基本計画」をうたてるためには、過去の町の自然的、社会的文化的な諸条件を調査し、この分析を行うことが先決である。この基礎調査ともいうべき「現況篇」は昨年十月完成、現況の把握ができたので、引き続き「計画篇」の起草が行われている。

この「計画篇」の中には向う十ヵ年の概括的な開発目標を盛り込んだ「基本計画」と、五年間の具体的な年度別計画を定める「実施計画」が、財政計画を前提として策定されることになっている。

建設計画原案の起草が終ると、県知事と協議するほか、町民のよ論を反映するため建設第審会や議会の審議を通じて適切に調査する方法がとられている。

以上のようにして町政のあらゆる部門にわたる計画が樹てられるわけであるが、いかに立派な計画ができても、町民各位のご協力なくては達成が困難なので、策定された内容につき深いご理解をくださるとともに、事業実施に当っては全幅的に協力を賜り、ともども目標に豊かな入善町建設のために力を挽げたいと念願しております。

母と子の科学教室

高さのわからない音

お寺の鐘（かね）の音をよく聞くと梵鐘の音よりも吸鐘の音が高いかわかりません。

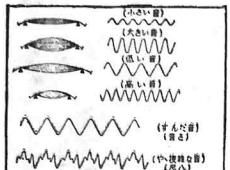
これらの音にはどんな違いがあるでしょうか。

琴の糸は短かくするほどまた強く張るほど速く振動するようになり、音も高くなります。同じ鐘では強くたたくほど音が大きくなりますが高くはなりません。

それは、振動が大きくなるだけで速くはならないからです。私たちの耳は、音の大きさと高さを区別して聞けるようになっていますがこの区別のつかない人を音痴（おんち）といいます。

しかし、高さのきまった音でも、その振動が少くとも一〇回以上つづかないとその高さが聞きわけることができないのです。物をたたくときに出る音は、いろんな高さの音のまじったものですが、ピアノなどはほとんど一つの音だけなのですんだ音に聞こえ、シロホンなどはたくさんの音を含んでいる上に、一〇回以下の振動で消えてしまうような短い音もたくさん含んでいるので、複雑な音色（ねいろ）をもっています。木片の形が不規則になり木の質が軟かくなると、この短い音ばかりになって、ついに高さのわからない音になってしまいます。

高さのわかる音を楽音、わからない音を非楽音よんで区別しますが、どの場合も、ただやかましい感じだけを与える音を騒音といいます。



農事メモ

稲作の6年連続豊作を期待して

（入善農業改良普及所）

今年は稲作欠陥を探究し高度の技術を生かして六年連続豊作を期待したい。

△奨励品種の作付普及▽

近年食糧事情が緩和されて米の食味米質が重視されるようになったから同一品種の多栽培はさけたい。

奨励品種は越路早生、豊年早生、新優で、現状維持品種はトワダ、農林一号、新6号、黒部一号、シロガネ、中新203号、北陸12号、山陰17号平和糯など

△種籾の比重選▽

種子消毒は励行されているが比重選は怠りがちであるから、健苗育成のために必ず励行してください。

△活着の早い苗▽

苗代は今までの保温折衷苗代がビニール陸苗代に移行し、近時は冷水温にたえ活着の早い陸苗代である。

陸苗代は硫酸根肥料を施し、湛水を十分に行い、除草紙後は外気にならし立枯病に注意することと、田植の際苗根の土を落さないようにを配ることが大切である

△土地改良と深耕▽

稲作の根本は、土壌に力をつけることである。

農閑期に区劃整理、農道排水路の改良、客土埋甚肥の増施により保水力、保肥力の増大を先づ計り、ことに、土層により除々に深耕することが必要である。

△早期植付けと密植▽

五月初旬までは霜害の冷害の危険があるから低水温に強い陸苗代苗は十五日頃の植付が適当である。

栽植密度は、地力のある多肥区は〇・〇三アール当り五五～六〇株、それ以下は六〇～六五株植えがよい。なお、並木植えは、施肥量を節約するのによい。

△本田の肥料▽

今年は悪天候が予想されるから稲の青成状況を考え地力指数五二五近一〇アール当り N 一三～五～一四・三近が適当で早期肥と穂肥を施用してください。

特に紫雲英鋤込の場合は一〇アール当り一一二五近以内を厳守し遅効性肥料は早期に鋤込み出来遅れにならないよう注意したい。

また、労力や土地条件らして、単肥よりも生産費が高いが複合肥料を使用した方が好まし。

△病害虫の防除▽

病害虫で一番恐しい虫害は、発生予察と適期共同防除が最も効果的である。

イモチ病は施肥量倒伏と宿縁があり、紋枯病は水温と関係がある。何れも早期発見と適期防除の効能はご周知のとおりである。

穂首イモチは葉イモチ病と違った考え方で徹底的に適期防除が必要である。

害虫は、全国的にみると六大府県とならんで全国第一位という非常に高い発生率を示し、しかも季節的に意欲をなくすると、博は、いうまでもなく一挙にして大金をつかむことである。

しかし、その反面に勤労意欲をなくするばかりか、身体を害し、さらに、家庭を破壊し、ついには、と、博、資金をかせぐために窃盗や詐欺、強盗事件などを犯すことになり、社会におよぼす影響は大きい。

これらの悪習追放には、防犯組合、青年団、婦人会など地域の団体が生活改善の一つとして、この問題に真剣にとりくんでおられるが、それにもまして、住民一人一人の良識ある自覚と努力が一番大切である。

なお、当署でも、この対策を強力に進めておりますが住民各位のご協力をお願いします。

と博の悪習排除

―入善警察署―

みると、年末から旧正月にかけてもっとも多い現状である。

産業開発青年隊員募集

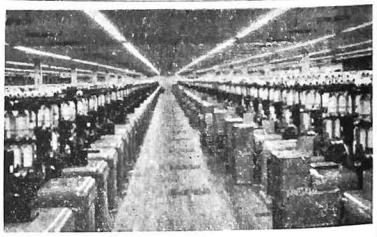
- 人員　50名
- 資格　県内居住の18才～25才の未婚男子
  学力は普通高校卒業程度
- 申込　郡及び県青年団協議会長を経由し、申込書、自筆の履歴書、健康診断書、青年団長の推薦書、学校卒業成績証明書を県へ提出する
- 締切　1月30日
- 選衡　2月20日　21日

昭和34年 町のあゆみ ハイライト

舟見・野中の編入合併 ①

34年1月1日に舟見町（野中分離地区を含む）と合併して、人口は3万を越え、県下最大の町となった。山あり海あり野があり田園都市としての総合性開発が期待される。なお、1月30日に町議会議員の増員選挙が行われた。

（写真　右は舟見支所　左は野中小学校仮校舎）



野小新築第一期工事完工 ⑥

昨春稲入以来、仮校舎で分散授業をよぎなくされた野中小学校は十二月二十五日新築第一期工事を終えた。総工事費は一〇〇万円普通教室四（延一二〇坪）講堂（一〇九、七五坪）。内外構造はまことに効率的なモダン様式である。

新校舎へは今春卒業する六年生を初め一・四・五年生が入り、二・三年生は第二期工事完成まで今までのとおり仮校舎で勉学する。

落成式は米沢町長、中川教委長の告辞式辞に始まり、寺崎建設課長の経過報告後県、町議会の来賓祝辞があり、生徒代表水島一雄君から純心な喜びの謝辞があって盛会裡に終り、多端な三十四年に終止符が打たれた。

西入善駅の昇格認可 ④

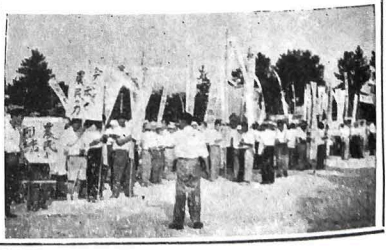
西入善駅の設置は工場誘致の足がかりとしてその実現に町をあげて運動を続けてきた。昨春西入善信号所として登場次の、駅への昇格は大体予想されていたがさきの伊勢湾台風対策などのため国鉄理事会の開催が遅れ、旧臘23日、国鉄総裁から認可された。駅業務の開始は四月早々である。

黒四冷水害対策妥結 ③

30年の暮関電の黒四計画発表以来、地元、県、関電との間に会議の結果、31年8月協定書を締結。34年8月細部条項を取り決め調印された。

この問題は、多年の懸案であり、砂質洩耕上で冷水地帯の木町としては将来の農政の一大エポックであった。

（写真は　農民大会）



呉紡入善工場の新装 ③

繊維製品の需要は時とともにますます高級化されてきた。

呉紡入善工場では、この時代の要請にこたえるため設備関係に根本的な検討を加え、今年六月から工場の一部の改修にとりかかった。

温度、湿度の装置や機械の能率的配置には最も力が注がれている。

今年一月中には完全にできあがる予定であるが、完成の暁には呉羽紡績の最重点工場として威力を発揮することになる。

写真は三〇〇ルックスの明るさのスッキリした近代設備を誇る粗紡室。

今年の年賀切手

米食いねずみ金沢の郷土玩具

簡保のマネー・ビル旋風おきるか

ことしの十二支はトップに戻って、ネズミであるところから、今年の、年賀切手に金沢の郷土玩具の米食いねずみが登場した。

このネズミは、同じネズミでもそこらにいるのとはちょっと違う。加賀百万石の城下町に生れた由緒のあるオモチャである。ご先祖は天保の初め（一八三〇年）いわゆる天保のキキンで暮しに困った当時の足軽小者などの下級武士が手内職に作りだしたものがこれだといわれている。

頭からシッポの先まで十一センチ、胴の太さ三センチという可愛い小ネズミ。切手のデザインでは白ネズミになっているが、ほんとのオモチャは、キリの木を横腹についたバネを押すと頭と尾が同時にピョコリと下がって、前のおわんに頭をつっこむしかけ。

米食いネズミをもっていると財産がふえる、というが、年賀切手をきっかけに、地元金沢市市姫通りの中島めんやでは昔の形を復興し、盛んに製作しているという話である。

焼いたままの真黒である。

町にある米食いねずみ

金沢市内でも二個しかないと週刊朝日でいっているが、この米食いねずみを、しかも二個も仲町の竹内弥三右ェ門氏は保存されている。氏は人も知る郷土玩具研究家で、その蒐集玩具は北海道から九州に及ぶ三千余点を整理保存されている。

写真は竹内家にある郷土玩具のうちのねずみの玩具。

①大阪のねことねずみ
②京都伏見のなんばん乗りねずみ
③近江八幡くらゝ入りねずみ
④⑤金沢の米食いねずみ
⑥佐賀県弓野の猫とねずみ
⑦岩手県花巻温泉のなんばん乗りねずみ

天保時代にはやったカラクリ人形の影響をうけてできた、素朴な作りや動きの巧妙さは、当時としてはハイカラなオモチャだったことが諸かれる。

いまでは、近代的なオモチャに押されて、金沢市内でも、たった二個しか残っていない、と昨年暮の〝週刊朝日〟にのっている。

長い間廃絶されていたのだが、年賀切手をきっかけに、地元金沢市市姫通りの中島めんやでは昔の形を復興し、盛んに製作しているという話である。

お願い

世界農林業センサス

2月1日現在で行われます

このたび二月一日現在をもって行われます一、九六〇年世界農林業センサスは、世界の農林業生産を安定し発展せしめる基礎的な統計を作成する目的で国際連合食糧農業機構が提唱し、世界百余ケ国が参加して、十年に一回殆んど一斉に行われる一大農林業基本調査であります。

①農林業における比較において日本農林業の実態を把握し、又我が国独自の立場から農林業の実態を正しく把握して農政の進路を定めるため、農林省、県、町の系統で調査員の方々に調査をお願いする農、林家調査及び農、林家以外の農、林業センサスの調査内容は統計の目的以外には絶対に用いてはならない事になって居り、調査員の方々にも詳細な資料が届いてこスムーズに正しい調査が出来ますよう格段のご配慮とご協力をお願い致します。

はかる政策を樹立する基礎資料を得るために極めて必要なセンサスであります。

このことは又県や町にとっても同様に必要であることは申すまでもありません。

このため町では、十名の指導員と百六名の調査員が農林大臣の任命により設置され調査に当ります。

本調査は、どの様な地域にどの様な農林家がどの様な機構・方法でどの様な農林業を営んでどんな生活を行っているかを詳しく調べるため、農林省、県、町の系統で調査員の方々に調査生産力を向上し、農林業に従事する人々の生活安定を

農業事業調査と、農林省統計調査事務所同出張所の系統では二月一日現在に行う農蚕業集落調査及び三十五年度行う林業地域調査の二本立となっています。

調査内容は今回新たに林業調査を加わって非常に尨大で空前のセンサスと云われ、この調査に寄せられる期待は極めて大きいのであります。

調査員は、農林省、県、町の担当もそれぞれ、この調査に当ります。

このことは、本年度の一般会計予算に計上されることになった。

上田次五右ェ門、田中久栄豊（牲と野）、伊林啓、井林とし子、福沢良作、松島タイ（小習戸）岡本周次、早川寅治、橋本由次郎、鍋島十太郎、永井勇松、浦滝友一（新屋）小杉元義、宮沢良吉、竹内与吉（入善）、板川夏枝、目沢広吉、大谷修六、福島ヨシ（上原）荻沢出並べてもどれ一つ進まねばなんにもならない。毎年最重要なものから一項目宜しく、粘り強く推進しなければ、ますます深く、強く推進してみたらどうだろうか。

民生委員六五名きまる

十二月一日、厚生大臣より次の六五名の方が委嘱せられ、町の民生安定に貢献されることになった。

藤井友吉、扇谷つた、南保栄太郎、沢谷くさ、田中信次、大門　巌、平柳浸次郎五十里初郎、泉　俊一、米沢良吉、竹内与吉（入善）、板川夏枝、目沢広吉、大谷修六、福島ヨシ（上原）荻田清松、木田武雄、樋本亀太郎、福島幸与（岡）、高桜薫森島秀勝、池原一郎、島田与右ェ門（岡）、石谷猪治、愛場高邑さだ、石谷猪治、愛場十作、上野じん（舟見）富吉、杉沢吉郎、長島幸与（青木）井田清秀、浦田秀栄清田善助、広瀬義隆、塚田吉、森山　茂（鍋中）

月間放談

（1）

交盃おそるべし

ながれ・たかし

毎度のことながら新年を迎えると誰でも一応は〝今年こそ〟と思う。

この意味で正月を目前にして、昨年公民館長会が前年度の新生活運動重点目標に〝交盃、善典返し、病者見舞返礼の廃止を提唱したのはタイミングのよい決定だったと思う。

とくに宴会の交盃の廃止はなかなか良かった。

本来なら交盃も無意味ではないだろうが、この頃の交盃ときたら大へんだ。

とりもち役の芸妓はいろいろ眼が廻るだろうが、あまり酒のいけない人にはなおつらい。第一せまい室内をドタバタ歩きまわられたのでは、ホコリがたって不潔この上もない。不潔といえば盃のまわし飲みでどんな病気がうつらないとも限らない。

その上酒のムダだけでも相当なものと思う。タタミに飲ませたり、お膳やかくし茶碗にいくら飲ませたら〝もう酔っぱらった〟といっていいと、と昨年暮の〝週刊朝日〟にのっている。

〝もう酔っぱらった〟という道理はないからナンボでも浪費する。

とかくゴザなめと称せられる飲み助に限ってムヤミに他人に盃をさしたり、こぼしたりしているのだから呆れたものだ。

いっそのこと銚子と盃を全廃して、ポットと洋酒のグラスを使いあちら流にグラスがあかねば酒はつがないと。芸妓は交盃をとりもたない。

餅つきの民俗

餅はいろいろの年中行事につくられるが、もっとも一般的なのは、年の暮につくられる正月の餅である。だいたい十二月二十八日頃につく。餅は、米が主要な材料となっているが、粟、稗、きび、粉などでもつくられる。しかし、神に供える餅は、米でなければならないとされている。

餅の形もいろいろであるが、年の神様に供えるのは丸い鏡餅である。昔の鏡は金属の薄い円盤状をしていたので、鏡餅という名は、それから生れたと考えられている。八丈島の鏡餅というのは、そういう薄い円盤状のものが現在でもつくられているのである。

雑煮は日本の正月を代表する、いろいろな食べ物である。雑煮という言葉は、神前に供えた餅や、大根、人参などの、神様のおさがりをいただくという風習から生れたものである。

（新婦人12月号）

正月の餅は、神や先祖に供えるばかりでなく、家族一人一人のために年餅を飾る。つまり餅には、人の生命に力を与える霊妙な力がひそんでいる食物だと考えられていたからである。

れているのはおもしろい。しかし、全国的にみれば、鏡餅は厚い、どっしりとした大小二つ重ねのものが普通となっている。

入善町風土記

…第65回…

追補　入善小太郎の古戦場

―成合池の所在―

竹内慎一郎

先に前後八回にわたって入善小太郎物語を連載し、寿永二年の昔（七七七年前）入善小太郎（十七才）が木曽義仲に従って、クリカラ谷宅、長並、一松で敵い、源平盛衰記の「クリカラ峠の一戦に破れ、あやうい所を義父の南保次郎に助けられた事、高橋の首を入善がうばって木曽の本陣にかけこみ敵を欺いたこと、成合池の所在に関する多くの文献、資料を検討し、確かな所在は何れも不明として、台地（巾一・五キロ、長さ三キロ、高さ二〜三〇米）と、その北方に並行して横たわる長並一松の砂丘（巾二キロ、長さ四キロ、高さ二〜三〇米）にはさまれた谷間に柴山湧の一部が流入し、そこに出来たものと思われる成合の池がある。

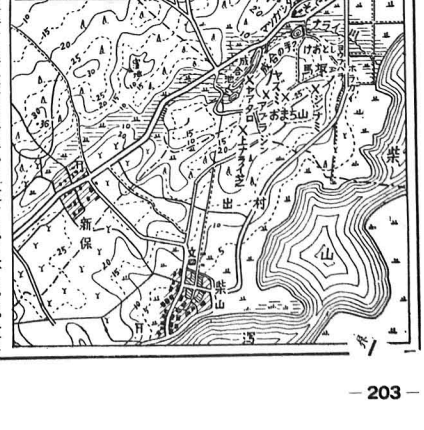
土山の北側、成合池に接集落長の川良雄氏から、成合池の研究家小松市佐美町前出前氏を紹介され、同氏から詳細な資料が届いてこの所在が明らかになった。

現地は今江の西四・五キロ、柴山湧の東端近く、佐美（サビ）地内の砂丘の谷間にあって、山三五〇米の池が城の外ぼりのような形で残り、周囲にマコモが密生している。

前出氏の回答を要約すると、

源平盛衰記の一戦に破れ義父の南保次郎に助けられた平維盛は成合の手に拠って安宅の橋を落せばよいとして退却し、成合池の所在に関する多くの文献、資料を検討し、確かな台地（巾一・五キロ、長さ三キロ、高さ二〜三〇米）と、その北方に並行して横たわる長並一松の砂丘（巾二キロ、長さ四キロ、高さ二〜三〇米）にはさまれた谷間に柴山湧の一部が流入し、そこに出来たものと思われる成合の池がある。

土山の北側、成合池に接集落長の川良雄氏から、成合池の研究家小松市佐美町前出前氏を紹介され、同氏から詳細な資料が届いてこの所在が明らかになった。


凡例
源平時代の頃
合池と縄張
されう地域
（前出氏説）
成合古戦場図
佐美
柴山
新保
出村
ナライ池
ナライ川
ナライ川が流れ
上ナライ
ヤマ
ヤマ
ヤマ

今年の町体協のねらい

スポーツ人口の拡大を

地区体協の充実をはかり、スポーツへの理解を深め、それぞれ地区に即した育成方針により、大衆へのスポーツの滲透をはかる。

町体協理事長　若狭親吉

（第二回町体の開会式）

社会体育とは

社会体育とは、社会人に身体運動によって興味と健康を満足し、生活機能と社会性を向上させるために行われる体育、スポーツ、レクリエーションを意味する。

社會体育のねらい

① 人間生活は欲望と満足の繰り返しの連続にて、体育は人々の興味を満足し、生活を明るく豊かなものにする。

② 身体は適度に使えば発達し、使わなければ退化する。あまり一ケ所ばかり酷使すると疲労が重なって故障を起す。運動不足を補うため、疲労回復と矯正のため適度の運動を行えば老衰を防ぎ体力を永く維持する。

③ 体力により高められた機能と適応性は、日常生活に能率と安全をもたらす。養われた純心明朗、真摯、忍耐の性格は生活能力に大きな関係をもつ。

④ 体育は実行する人たちに好ましい社会的性格を育成するに効果が多い。

社会を構成する個人の能力を最大限に高め、社会集団の能力を高める etc。

社会体育は行政的に教育委員会に属し、運動を展開するのは民間に結成される体育協会である。その活躍の如何は地域社会の発展を左右する。青年、壮年、老年の厚い年令層を対象とするものだからスポーツ人口の増大を図ることが肝要。

今年の体協の推進目標

本町の体育協会は二九年に発足し、庶民体協体協の派生により改組新発足された。その後地区体協の育成種目別協会の拡九、町体、郡体など直接間接に活動したが、充分な成果を挙げ得なかったと考えられる。これにはいろいろな理由があるが、財源の稀弱さはかくせない事実である。

1 社会体育費（補助金を含む）の増額とその他の自主財源の拡充

2 地域の実状に適応した体協活動の企画運営の研究

3 高校はじめ各学校の施設及び技術的の援助協力

4 婦人会、青年団との連絡提携を密にする

5 社会体育指導員の活動を計画的に拡充強化

なお、二、三の地区体協が、発足後一年を経ずして種々の大会を開催し、地区民の体協に対する理解を深めた。

また、町体の入場行進や演技に参加された選手の態度や大会運営等は他町に誇るにたるものであったことは、今後の社会体育振興に明るい見透しを得たものとして喜ばしい限りである。

おとなになる青年を祝い

15日の成人式は中央公民館で

第十二回成人式は十五日の午前十時から中央公民館でおこないます。

成人式は毎年〃成人の日〃に男女青年の門出を祝福する日として「おとなになったことを自覚し、自から生き抜こうとする青年を祝いはげます」日とされています。

さきに、町内回覧や住民登録により調査していますが、調査もれの方は当日でも受付けます。

今年の地区別成人数は次のとおりであります。

入善（七二）上原（三七）
青木（二五）飯野（六二）
小摺戸（二七）新屋（二八）
椚山（三二）横山（三二）
野中（二八）舟見（一五）
呉羽寄宿（三七）合計三九名。（12月21日現在）

なお、成人祭りの行事として町運青では、演劇、舞踊、音楽、弁論などの発表会を計画しています。

これからだんだん寒くなるわけです、手が痛くて台所仕事が出来ないとか、かゆくて勉強ができないとかいう事になります。

しもやけは腺病質、冷えぜん、食血症、心臓病、腎臓病等の確病者がかかりやすく、これに不摂生が加わって起りますからなかなか出来ないことですが、しもやけにかかりやすい人は毎日冷い水とあつい湯に手や足を交互につけて一度に十回ぐらいくり返してマッサージしたり、ひまがあればこすったりする。水仕事はなるべくお湯で行うようにし、ときどきハンドクリームなどを入れたり、ミカンの皮や少量のリゾールなどを入れたぬるま湯につけてマッサージをしたりしようが、ナスのヘタや大根の葉などの除干しものを煮て煎じ、少し熱いくらいにして患部を温め、これを五、六回繰り返すときめがあります。くずれてしまったら凍傷チンキ、稀沃度チンキ、ビタミンA、D軟膏などが治療薬がありますが、下手に素人療法をしますと化膿してあとが残ったりしますから、先づ医師にみせた方が安心です。

しもやけの手当

冷えは十分注意する。病的貧血だけでなく、背負うたにたえず注意する。病的貧血だけでなく、背負モモで子供の足をしめつけたり、婦人が強くクツ下止めをしたり、きついクツをはいくと足にしもやけが出来易いのです。しもやけにかかったら軽いうちならマッサージや皮膚を刺激する薬、たとえばミカンの皮や少量のリゾールなどを入れたぬるま湯につけてマッサージをしたりしようが、この場合じゃったものや汚れたものを用いないよう注意する。

図書館だより

続書には次の4つの機能があると云われています。

◎ 情報を得る続書

新聞をよんで天気予報や ラジオの番組を見たり、内外情勢の動きを知ったり、辞典を調べるなど必要とする情報を得る読書です。

◎ 調査研究の読書

畜産経営とか、日本経済躍休館を止めて、祭日だけを除いた通年開館を実施して皆様のご要望にこたえて、氧楽に御利用していただくようにとりはからっております。

なお、図書館についての要望事項がありましたらご遠慮なくお申し越しください。

児童　一七八五名
また、年間利用冊数は四一〇二一冊で一日平均一三六冊。特に利用されている図書を種類別にしますと、

文学　三二九一五冊
社会科学　二一八四冊
雑誌　一七六九冊
児童図書　九〇七〇冊

順になり、開館当時とくらべて比較にならない数字を示しています。昨年十一月より皆様の便を計って月の現状についてとかを前者を除いた通年開館を実施して皆様のご要望にこたえて、氧楽に御利用していただくようにとりはからっております。

◎ 教養、趣味の読書

精神生活を豊かにするものに、文学作品、あるいは趣味（茶、花、釣）等に関する参考書を読む場合

◎ 娯楽の読書

現状ではこの面が最も多いと思います。

図書館は皆様の教養情操を養う場として、或るいは調査研究室等にそれぞれ個人の自由な社会学級である。

最近の利用状況を見ます、年間三八八〇七名で一日平均一三〇名の一般、学生、児童に利用されています。その内訳は、

一般　一八二三六名
学生　二七一六名

新着図書案内

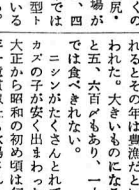
六番目の幸福　縫田はな子
エレクトロニスの話　関　英男
葬命をのばす　久慈直太郎
漢方治療の実際　荒木正胤
数のパズルは面白い　金沢　養
農家のための自動三輪車の知識と取扱　田島　茂
農家の税令　永山薩一

2等陸海空士 自衛官採用

採用人員 13,000名

志願締切……35年1月14日・年齢……18歳～25歳未満
採用試験……35年1月22日(金)富山市・23日(土)高岡市
24日(日)富山市・入隊……35年3月下旬・待遇……2等陸海・空士・初任給……約6,400円営(艦内)居住他に衣食支給

自衛隊富山地方連絡部
富山市舟橋北町50　電話③3749③1870番



昭和34年度たばこ消費税收入見込額
6,575,560円です

3月～11月　4,915,560円
(12月～2月見込)1,660,000円

〝タバコが生む町の財源〟
〝タバコは町で買いましょう〟

小売店69軒→光1個30円→町へ3円30銭

稀少価値な正月ガズの子

昔語りのニシンを思いだす

お正月のたびに、胃袋にそこはかとない郷愁をかきたてるお・ぜ・料理などに、ふるさとを思わずにはいられないのがカズノコである。

ところが、昨年から、このカズノコが人工衛生よりとしく、値段は上りっぱなしいまでは昨年の五割高で、一切れ百円につく。とても庶民感覚では手が出せず、高級料理やで、酒のサカナにチョッピリつけてくるといったありさまです。人工カズノコで出はじめた。

東北地方では、ニシンをカドと呼ぶ。カドの子なまって カズノコで一この地方では名詞の下に「コ」をつける。例えばワラシッコ、シジメケンコ入蜆貝入一六七十年前は、秋田（男鹿半島）青森（鰺ヶ沢）でもうんととれたが、やがて内地（北海道で云う本州の方）に寄りつかなくなり、北海道の松前（函館下海岸）から古平岩内市、小樽（忍路・高島）を経て稚内の近くの増毛・留萌・苫前・利尻・礼文島あたりへと漁場が次第に北上し、明治三、四年をピークとして、今では樺太近海の沼海州で中型トロール船で漁獲されている。

早春の三月末から四月初めのころになると、ニシンの大群が海岸へ産卵に押しよせる。メスが卵をへり（産む）ちらすと、オスがしろっこい（精子）をまく。海面は一面の海といわれるように一面まっ白になり、建網起し舟の漁火が点在し、何処からともなく唄やみの中から木遣節やソーラン節が聞えてくる。今では昔語りとなった。

このニシンは何処へ行ったのか、その生態は神秘にとざされ、学者にもわからないところが多い。

ニシンの来ないのは乱獲の結果でなく、水温その他海の状況の変化だろうといわれるのが定説になっている。

岸でとれなくなったので オホーツク海で定期小樽などの底引船が冬ニシンをとっているが、これは卵をもたぬからカズノコもなく、また油気もないから、時節外れのためかバカニシンと呼んでいる。

北海道でも根室、釧路の海では若いニシン（コニシンという。）がとれる。水戸の涸沼や青森県の下北地方の海とつづいた湖沼では湖沼ニシンがとれるが、これは回遊ニシンとは別の種類でカズノコの給源になっている。

ニシンは十六、七年から二十年くらい棲息し、年令はウロコでわかる。三年目くらいから生殖能力をもち五年になるとすべて成熟する。はじりに五、六年生がとれるとその年は豊漁だといわれた。大きいものになると五、六百〃あり、一人では食べきれない。

ニシンがたくさんとれてカズの子が安く出まわった大正から昭和の初頃は毎年一億貫以上も水揚されニシン景気にわき、町からもジャンボ、その頃は数の子は多化を珍重されず、盛漁期は多化をきわめるので海へすてたほどであった。

今では千二、三百万貫くらいに落ち、今春からは、アラスカ神まで ニシンをとりにゆく計画までできている。

あとがき

本号より郷土出身の名士と町との連がりをもたく〃名士にきく〃の欄をもうけた。毎月お一人として、此処にこの人ありと、各〃に活躍の様子も紹介したい。（曳田）